

本活動レポートは平成 25 年度に作成したものであり、  
登録者の所属及び内容は作成時のものです。

# 人材登録事業の活用事例

## 【鳥獣保護管理捕獲コーディネーター】

### ■人材登録事業利用者

一般財団法人 鹿児島県環境技術協会

### ■依頼を受けた登録者（鳥獣保護管理捕獲コーディネーター）

岩崎 秀志（特定非営利活動法人 若葉）

### ■登録者への依頼事項（概要）

牧場における誘引狙撃を想定したアドバイス

#### （利用者からの報告）

### ■利用申請に至った背景

牧場を使って誘引狙撃によるシカの捕獲を予定しており、誘引狙撃の経験のある登録者からアドバイスを受ける必要があった。

### ■登録者との事前調整

捕獲を予定している牧場で誘引狙撃を想定し、現地視察や意見交換等について、あらかじめ提案したうえで依頼した。実施期間等について調整した上で見積もりを提出してもらったうえで契約を交わした。

### ■本事業の活用による成果（利用者の感想）

県内行政機関への誘引狙撃の考え方の浸透及び、地域に応じた捕獲手法選定の考え方を学ぶことを目的として依頼し、体制整備、人材育成の重要性及び困難さ、使用猟具等の選択について、経験に基づく貴重な講義を受けることができた。



## (登録者からの報告)

### ■依頼を受けて実施した内容

- 1) 捕獲法人としてのNPO法人 若葉の概要
- 2) 富士山で行って来た誘引捕獲の準備
- 3) 上床牧場における誘引狙撃の現地視察
- 4) 意見交換
- 5) 行政側の今後の役割

### ■報告等

誘引狙撃を簡単なものと考えていたり、無理に実施して失敗したりする例が多く見受けられる。結果を出すには準備すべきことが多々あり簡単に効果をあげられる捕獲法ではない。誘引狙撃を成功させるには、成功の経験値が高い捕獲コーディネーターが、情報を公開しつつ、それぞれの現場で丁寧に指導していくのが最も早く確実で、結果的に無駄な支出が抑えられると感じた。鹿児島県の前向きな姿勢は富士山に続いて成功させられるとの可能性を感じている。同時にこの事業は、多くの県の需要と可能性があると実感した。



座学による講義の様子。  
富士山の事例を元に、体制づくりの重要性、捕獲者の選定・教育、地域に合った銃の選定、求められる射撃技術、救急法等を講義。



現地視察の様子。  
現場を見ながら餌付けと狙撃の相反する関係や、狙撃の確率を上げやすい場の設定・安全管理の留意点などを説明した。

